



当番でもない子どもも積極的に手伝う。だれにすすめられたものでもなく自主的に

した。子どもたちは、自分の身の回りのことは自分でする生活の中で、掃除、洗濯、食事当番など協力し合い、何をすればいいのか自分で考えるなど、集団生活の体験の中で「生きる力」について身をもって学びました。

ゆとりの中で じっくり学習していく

完全学校週5日制が実施され、学校での授業時間が減り、授業内容も変わりました。今まで多くの知識を教えがちな教育から、ゆとりを持って学習できる授業へと変わり、子どもたちが社会の変化に対応し、たくましく生きていくための力を育てるために「総合的な学習の時間」が設けられました。

この時間は、各教科などの学習で学んだ知識をさまざまな体験活動の中で実感をもって理解したり、学び方を身につけて、生涯学習の基礎となる「生きる力」を育てています。町内の各学校では、それぞれが創意工夫をしながら、地域の文化や社会体験など特色のある学習に取り組んでいます。

学校の取り組み

黒坂小学校の「総合的な学習の時間」は、3

年生が地域のことを学び、4年生が自然のリサイクル、5年生がボランティア活動、6年生が人権について、年間を通して学んでいきます。

子どもたちには、自分で課題を見つけて解決していく力や目標を持ちあきらめない強い心を身につけてほしいと思います。また、生きた知識の中から自分の生き方や将来についても考え



黒坂小学校長

鳥居 敏子



花を植えて黒坂駅前の美化に取り組む

てほしいです。

地域では、子どもたちの受け皿が充実し、子どもたちもよく参加しているみたいです。自分で何がしたいのかを考え、自分にあつたものをその中から選んでくれればと思います。

子どもたちが地域に出かけることで、地域も元気になったと話を聞き、互いにいい関係になっていっていると思います。楽しいことも大切ですが、つらい体験も必要です。時には厳しく指導していただきたいと思っています。地域の皆さんには、子どもたちのことを温かく見守ってほしいと思います。



指導続けて約 20 年

子どもたちにソフトテニス
熱心に指導する大西新一さん（野田）。
毎日、夕方になるとテニスコートに立ち
地域の中で子どもたちを支え続けている。

地域のきずな

子どもたちは地域に出かけることで多くを学び、地域は子どもたちから活力をもらうなど互いに良い関係を築いている。今まちでは、さまざまな催しや活動が行われ、子どもたちは有意義に過ごしている。

子どもたちと地域は互いに良い関係に

通学合宿の期間中、子どもたちは、地域の人や民生児童委員などが話をする「オセの話」やグラウンドゴルフなどを通じて地域のひととの交流を深めました。

子どもたちは、地域に出かけることで多くのことを学んでいます。良い影響を受けているのは子どもたちだけではありません。

グラウンドゴルフに参加した高齢者は「朝からずつと天気が気になっていました」と子どもたちとの交流を楽しみにし、合宿所のある下菅地区の人は「子どもたちがいると地域がにぎやかになる」と話すなど、地域は子どもたちから活力をもらっています。



あいさつの大切さを話す民生児童委員

さまざまな催し 充実する地域の体制

まちでは、子ども週末活動支援ボランティアアセンタールを町公民館に設置し、さまざまな活動を支援しています。

同センターでは、野外炊飯や陶芸教室、地域探索、魚釣りなどさまざまな催しを企画。講師は地域の人に協力してもらうなど人材育成や地域のきずなにも力を入れています。

企画も好評で、子どもたちは「自分が参加してみたい催しは、予定表を見てちゃんと決めていよう」と数か月前から楽しみにしています。



年代を越えた交流も深まる子ども週末活動

そのほか町内には、野球やサッカー、剣道、空手、テニスなどのスポーツ活動や文化活動の場があり、子どもたちはそれぞれ自分で選んで参加しています。

また、図書館を利用する子どもたちも多くいるなど、地域の受け皿や子どもたちの居場所づくりは年々充実しています。

ボランティア活動に参加する子どもたち

町内には、さまざまな活動があります。なかでも町ボランティアネットワークが行っている「誕生日を迎えた高齢者宅を訪問し、手作りのプレゼントを手渡す」企画には、毎月20人前後の子どもたちが継続して参加しています。

平成14年4月から始まったこの企画も今年で3年目。毎月第2土曜日に町公民館に集まって活動しています。

プレゼント作りも町内の各団体に協力や指導してもらったなど地域交流にもつながって



訪問先で聞いた困りごとなどをシートに記録

います。

子どもたちは、高齢者の誕生日を祝うとともに、日常生活での困りごとなどの聞き取りも行っています。その要望などは町ボランティアアセンタールへ受け継がれるなど、高齢者宅への訪問活動はとても大切なものになっています。

同ネットワークの山下弘彦さん（根雨）は「始めた当分の子どもたちは、緊張してうまく話をするのができませんでした。少しずつ話ができるようになるなど体験を通して成長しています」と話し、高齢者は「子どもたちが訪ねてきてくれてうれしかった。誕生日を祝ってくれて感謝しています」などこの企画を喜んでいきます。

ただいまー。

夕日が傾きかけるころ
子どもたちが元気な声で
合宿所に帰ってきた
まるで自分の家に
帰ってくるようにー。

笑った
怒った
ちよっぴりさみしくなった
ともに力をあわせた
いろいろあった合宿生活。

子どもたちは
6泊7日の
生活を終え
ひと回りも
ふた回りも
大きくなって
帰っていったー。





特集 子どもたちの成長 終わり

自然保護の精神を受け継ぐ

多くの人に感動を与えた

田淵行男作品展



山岳写真に高山蝶
自然の魅力に心奪われる

日野町黒坂出身の山岳写真家、故田淵行男さんの作品展が、6月13日から26日の14日間、日野町山村開発センターで開かれました。

来年6月に生誕百年を迎えることから、田淵さんが移り住んだ長野県豊科町と共催して、初めて田淵さんの故郷



涸沢の秋 1960年10月撮影 所載文献「山の季節」



山岳写真、高山蝶などの作品に見入る来場者

ギャラリートーク

田淵行男を語る

田淵行男作品展初日の6月13日、田淵行男記念館長と写真家の水越武さんを招き、田淵行男の魅力について語る「ギャラリートーク」が行われました。



Akahane

赤羽行雄（あかはねゆきお）
豊科町文化財団田淵行男
記念館長



Ikuta

生田英明（いくたひであき）
写真教室講師・写友会ひの
ギャラリートーク進行役

赤羽 田淵さんは思想の一つに「自然は母なる大地。自然の中で自分たちが生かされている。だから自然を大切にしていかなければならない。人間の命も、小さな虫の命も平等なんだ」という考えを持ち、すべてを見つめてきた。だから、人間の都合によって自然開発が進むことをなげいていた。その気持ちは

や動物が共生していかなければならないという田淵さんの考え方を世の中に伝えていくのが田淵記念館の責務であると思う。

写真集の中でも表現されている。いかに自然環境を保護し、自然そのものの姿のまま人間

生田 黒坂での生き方が田淵さんの人生のベースになっているような気がする。やはり幼いころの感性が大切だと思





長野県豊科町

長野県のほぼ中央に位置する安曇野の中心地で自然豊かな田園のまち。名水百選のひとつに選ばれた「安曇野わさび田水群」を利用したわさび栽培や安曇野米、冬期には500羽を超える白鳥が飛来。昔から山紫水明の地として知られている。人口 27,437人 (H15.4.1)



北アルプスを望み、自然豊かな「安曇野 豊科町」



作品展を機に豊科町との交流が深まる

ひとりの山岳写真家を通じて 県を越えた交流が深まる

長野県から田淵行男 記念館友の会員が来町

作品展には、開催前から田淵行男記念館の館長や学芸員が準備に携わり、初日には長野県豊科町助役も駆けつけま

である日野町で作品展を開くことになりました。作品展は、長野県安曇野の中心とする北アルプスの山岳写真やオオイチモンジ、タカネヒカゲなど高山蝶を細部まで忠実に水彩で描いた細密画など54点の作品を展示。来場者は「山岳写真は、光と影のコントラストがすばらしい。モノクロ写真は山々の色を想像させてくれる」と自然の魅力に心を奪われていました。作品一つひとつには、自然に対する熱い思いが込められ、多くの人々を魅了し、感動を与えました。

また、長野県から田淵行男記念館の活動を支援する「友の会」会員や田淵さんの長男の田淵穂高さんも日野町に訪れるなど、この作品展、田淵行男という一人の山岳写真家を通じて、県を越えた交流が深まりました。

子どもたちへ 自然を大切にしてほしい

田淵行男記念館の赤羽行雄館長は、田淵さんの魅力などを子どもたちに伝えようと、作品展の期間中、町内の小学校を積極的に訪れました。

6月24日には、町文化センターで、小学5・6年生、中学1年生を対象に話をしました。赤羽館長は「田淵さんの作品には、自然を愛し、大切にしたいというメッセージが込められている。皆さんも自然を愛する気持ちを持ち続け、恵まれた環境をいつまでも残してほしい」と話し、子どもたちは熱心にノートに感じたことを書き「もっと身近な環境について考えていきたい」と話していました。

う。偉大な田淵さんを教育の素材として考えてみる必要があるのではないか。また、日野町の小学生も環境問題を取り上げ、安曇野の小学生と学習成果を持ち寄って交流すればおもしろいと思う。

水越 武(みずこしたけし) 田淵行男に師事。以後、フリーの写真家として活動



Mizukoshi

水越 田淵先生の山岳写真は、山の姿形より山そのものの存在、スケールにポイントを置いていた。先生からは、写真のテクニックを教わるというよりも、自然に対するふれあい方、見方を一番学んだ。また、作品に対する執念や常に新しい分野に挑戦する姿勢にはおどろいた。その姿は今でも自分の励みになり勇気を与えてくれる。先生は環境問題について早くから警告していた。田淵先生の教え、我々に残してくれた大きな遺産、恩恵をみんなに広めていくことが先生への恩返しであると思ふ。

将来を担う子どもたちへの指針

田淵行男記念館を始め多くの方々にご理解とご協力をいただき、盛大に作品展を開催できましたこと厚くお礼申し上げます。田淵さんのすばらしい作品の数々は、人々に感動を与え、子どもたちには環境教育の指針をもらいました。作品展を機に深まっ



福田和也さん(黒坂) 田淵行男作品展実行委員長

原点は故郷で過ごした日々

日本を代表する山岳写真家であり、高山蝶たかやまちょうの研究者としても高い評価を得た故田淵行男さんは、文筆家でもありました。生まれ故郷は日野町黒坂。小学校4年生まで黒坂で過ごした日々を振り返り、著書「安曇野の蝶あづみのちよう」の中でその思いを書き記しています。

田淵行男

学校がひけると、すぐ裏山に駆けつける他ほかなかつた。山だけが唯一の魅力みりよくに満ちた遊び場であり、虫や兔うさぎや小鳥などをひっくるめた自然が何よりの遊び相手であつた。

裏山には花崗岩かこうがんの風化による適度な斜面があつた。松の小枝を敷いて滑るのである。もう一つは木登りで、これもスリルに満ちたスポーツであつた。

この方はかなり技術を要するので、やや高級な遊びに

なっていた。

この頃、岩登りやスキーに等級があるように、遊び仲間の中で自然に難易度なんいどによる等級ができていた。

私は木登りは得意の方だった。

日野川の川岸から突き出すように幹を伸ばした椿つばきの老木があつて、子供仲間なんぶつで難物なんぶつとしてマークされていた。

その木に初登攀はつとはんをなしとげ得意になつていた。ともかく山の子、川の子、自然の子として過すごした四年間の生活は、私の生涯しょうがいの指針ししんを少しの迷いもなく自然指向へと駆りたてていったように思われる。



昔、田淵行男さんが幼いころ遊んだ日野川。清らかな川の流れるは、今も変わりなく流れ続ける。
(写真は黒坂上3区から見る日野川)

『安曇野の蝶』より一部抜粋

まちの話題

あなたの声や地域、職場での話題をお寄せください。
役場企画振興課まで（電話72-03332）

中学2年生が実際に職場で働く

ワクワク日野職場体験活動

中学生が地域の職場で働くことを学ぶ、ワクワク日野職場体験活動が、6月23日から25日まで行われました。

参加したのは、日野中学校の2年生27人で、数名ずつに分かれて職場体験をしました。

今年は、フロント接待、スーパー、販売などさまざまな職種の13事業所が中学生を受け入れてくれました。

3日間の職場体験で、生徒たちは「仕事の大変さを身をもって感じました」などと話し、子どもたちの受け皿となった地域は、健全育成への意識を高めるなど充実した日々を送りました。

水谷石油店でガソリン給油などを体験した矢田貝将太さん、宮原京佑さんの2人は「学校で学べないことがたくさんあり、貴重な体験になりました」と話

していました。

職場体験活動は、生徒が学校を離れ、地域社会の中で実際に働くことにより、その体験の中から「生きる力」や感謝の気持ちを感じ取ってもらおうとする活動です。

働くことにより、地域の一員としての責任と自覚を深めてほしいと、10年前から中学2年生を対象に行っています。

交通ルールを守って明るいまちに

夏の交通安全県民運動の初日、交通安全意識を高める

交通事故を防止しようと、夏の県民運動の初日の7月12日、JA食材センター前（根雨）国道181号線で、町交通安全対策協議会員ら約20人が参加し、街頭広報を行いました。会員らは、冷たいコーヒート

チラシを通行車両のドライバーに手渡ししながら「安全運転に心がけましょう」と交通安全を呼びかけました。

また、この日は、根雨小学校で、同校生徒や老人クラブ会員、保護者らが参加して交通安全に

ついて学ぶ「3世代ふれあい交通安全の集い」が行われました。

実際に光を当てて反射材の効果を試したり、学校の周辺を歩き、交通安全に関するクイズに答えながら危険な場所を再確認しました。参加者は、危険な場所をまとめて地図を作るなど交通安全への意識を高めました。



ドライバーに安全運転を呼びかける



交通安全のクイズに答えながら意識を高める参加者



日に日に仕事がかまになる中学生